

運動部活動の現状と課題 —規則に着目して—

矢野 剛志 (生涯スポーツ 地域スポーツコース)
指導教員 黒須 朱莉

キーワード：運動部，規則，伝承

1. 緒言

運動部活動において、体罰と同様に部員を苦しめ、身体的・精神的に追い込んでしまうという点で共通の問題であると考えられるものに、理不尽な部活動の規則が挙げられる。久保(1980)は運動部における規則に着目し、その伝承の過程と問題点を指摘しているが、実際の指導者や部員の考え方は調査していない。そこで本研究は、運動部活動における規則の伝承という視点から運動部活動における現状と課題について検討することを目的とした。そのために、まず実際の運動部の規則の内容と、それらの規則の必要性と存在意義に対して部員と指導者はどのような考えを持っているのかを調査すること、次に、運動部の規則の伝承という観点から規則の伝承のされ方の傾向を「伝統」「因習」「伝統とも因習ともいえない」の3つの場合に分け、それらの伝承の傾向と属性(学年・競技レベル)との関係、部員と指導者間のギャップについて分析することを課題とした。

2. 研究方法

本研究の対象者はN高校の運動部活動(硬式野球部、水泳部男女、女子バスケットボール部、バドミントン部)である。研究方法は部員と指導者の考えを調査するために、質問紙を用いたアンケート調査を行った。

調査結果は、統計ソフトSPSSを用いて単純集計による分析を行った。また、属性と伝承結果の関係はクロス集計、カイ二乗検定を用いて分析し、有意確率0.05未満を有意差有りとした。

3. 結果と考察

硬式野球部は、4つの部活動で「因習」が最も多い結果となった。よって、指導者とその規則の目的、存在意義を部員に伝え、部員もその規則について考え直す機会が必要であると考えられる。

水泳部は、4つの部活動で「伝統」が最も多い結果となった。よって、規則を変えるか変えないという問題ではなく、規則の目的や必要性を考え、規則の価値を高めていくことが大切であると考えられる。

女子バスケットボール部は、4つの部活動で「因習」が最も少ない結果となった。この部活の規則には部員自らが考えたものも存在し、更に指導者の回答から自主性を重んじていることがわかった。よって、規則について部員が何も考えない状況を防ぐためには、部員間で主体的に規則を決めたり、指導者も部員に規則について考えさせる等の指導が有効であることが示唆された。

バドミントン部では、部内恋愛禁止という規則と学年の関係に有意な差が認められた。傾向としては、2年生に「伝統」が多く、1年生に「因習」が多いという結果であった。よって、今後は規則の目的を2年生が中心となって1年生に伝えていくことで、本来の規則の目的により近づくのではないだろうか。

引用・参考文献

久保正秋(1980) 運動部集団の原理的考察—伝承とその伝承の原理—, 東海大学紀要, 9: 11-20